内　田　秀五郎（うちだ　しゅうごろう）

越　沢　　明
（神奈川県都市部都市政策課）

1876（明治９）年，東京府下上井草村の富農の長男として生まれ，1905年に井荻村の収入役となり，1907年に31才の若さで村長に就任し，以後，1928年まで村長・町長の職にあった。1924年から1947年まで東京市会・東京府会・都議会議員をつとめ，都議会議長にも就任した。

関東大震災後，東京郊外の市街化が始まったが，内田秀五郎は旧井荻町全域（883ha）の土地区画整理事業に着手し，自ら組合長に就任し，先頭に立って事業の推進につとめた。この結果，今日の杉並区の約３分の１に及ぶ広い地域がスプロールすることなく，宅地化されたのである。これは東京の都市計画百年の歴史の中でも特筆すべき画期的な事業であった。

また東京市会・東京府会にあたっても土木事業，都市計画の推進に力を注いだ。戦前東京府土地区画整理協会連合会長，土地区画整理協会連合会副会長として，政府当局に対して低利資金融資の陳情などの先頭に立ち，当局の無理解の中で，全国の区画整理組合の取りまとめ役として非常な努力をし，戦後は全国農業委員会協議会長に就任している。

内田秀五郎は東京の風致地区の指定に大きな功績を残した。1932年より東京では各風致地区毎に風致協会が設立され，風致地区の維持と改善に大きな効果があったが，その提唱者は内田秀五郎である。内田は1940年に設立された東京府風致協会連合会の副会長となり（会長は府知事），1943年に東京都風致協会連合会となってから会長を続けた。内田は風致地区内の水道改修，地区内私有地の免税措置，地区内特別景観地の伐採禁止に対する補償など数々の努力を続けた。

戦争末期の風致地区の荒廃に対して，戦後はその復興に努め，風致景観の保全のために熱意を傾け，拠点地区の公園化を推進した。善福寺風致地区については内田自ら地主を歴訪し，説得し，内田の私財も投じて約１万坪の土地を東京都に提供した。こうして1961年に善福寺公園が開園された。善福寺池畔には喜寿を祝した内田の銅像が建っている。

内田秀五郎は都市近郊にあって将来の都市化を見越して郷土を発展させるという観点から都市開発に努力した人物である。内田のような先見性とリーダシップ，そして風致景観を創造するために私財を投げうつ徳の高さ――このような，地主があと何人かいたならば，東京の近郊市街地は，はるかに良いものとなっていたであろう。

今日，練馬区など，旧緑地地域で区画整理を今なお実行できない地域は多い。そして市街化区域内の「農地」の税金減免に汲汲とする「農家」の姿を見たならば内田秀五郎は何と言うであろうか？

（参考文献）『内田秀五郎伝』，『米寿秀五郎翁』，『土地区画整理組合誌』